

クルリンと ほしぞらさんぽ 3月号



空はすこしかすみがかかって？

冬の星座を鑑賞しましたか。もう3月ですから空は半分春の空になりかけていますよ。どんな星空が見られるのか、次のページの星図で確かめてからほしぞらさんぽに出かけましょう。今月は月の初めの2週間が、月明かりに邪魔されないのです、ほしぞらさんぽに向いているですよ。

春の星座が



南を正面にして夜空を見上げると、東と西と星の数がずいぶんちがうことに気づくでしょう。西側には一等星がいくつも見えてなんとなくにぎやかですが、東側は本当に数えられるほどしか星が見えませんか。

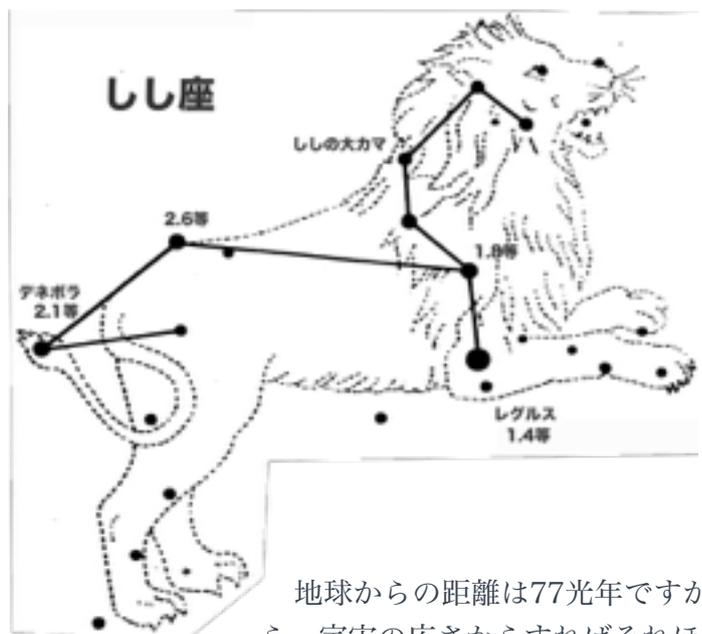
星図をみてください。オリオン座のそばに天の川が描かれていますね。オリオン座のあたりは天の川=天の川銀河（調べてみましょう）の方向を見ている空なのです。天の川銀河は2000億個とも言われる大量の星々が集まった星の大集団ですから、そちらの方角をながめれば、星がいっぱい見えますし、地球から近い部分にも星があつて明るく輝いて見えるというわけです。

でも天の川から東側にはなれると、天の川ではない空を見えていますから、明るい星（近い星）がうんと少ないのです。

そのため春の星座は形をたどりやすくなります。天頂の近く、ふたご座のすぐ左にかに座が見えて

います。かに座には明るい星がないけれど、その中央にプレセペと名付けられている比較的散らばっている散開星団があります。小さい双眼鏡があれば見えるでしょう。地球からは500光年以上離れています。

かに座の左側（東側）にならんでしし座のししの大がま（？マークを裏返した形）が見えますね。しし座にある1等星はレグルスで1.4等星で、全天で21ある1等星の中では最も暗い1等星です。

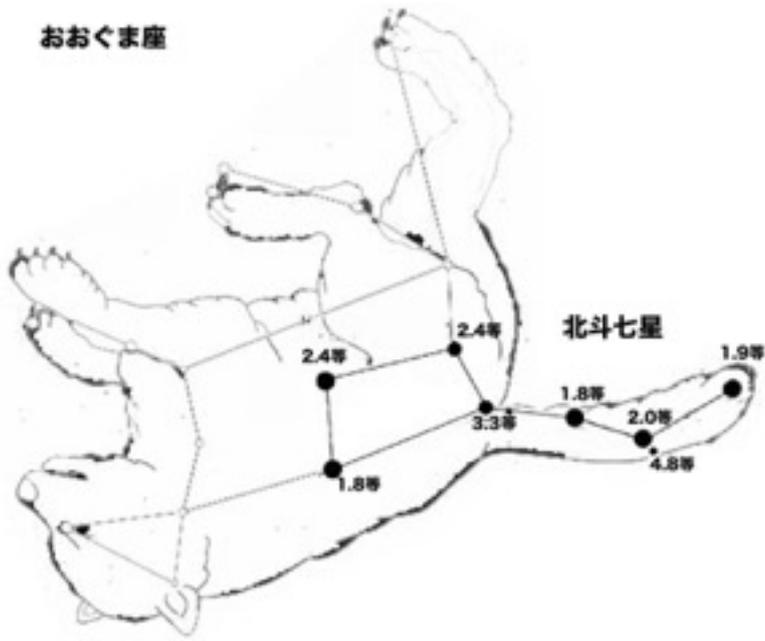


地球からの距離は77光年ですから、宇宙の広さからすればそれほど遠くはありませんね。

おおぐま座

北の空を見上げましょう。まだ西側にカシオペア座が見えていますが、北極星をはさんで東側には北斗七星が見えているでしょう。北斗七星は星座の名前ではありませんね。目立っていますがおおぐま座の一部です。かに座と比べると明るい星が並んでいることがわかりますね。

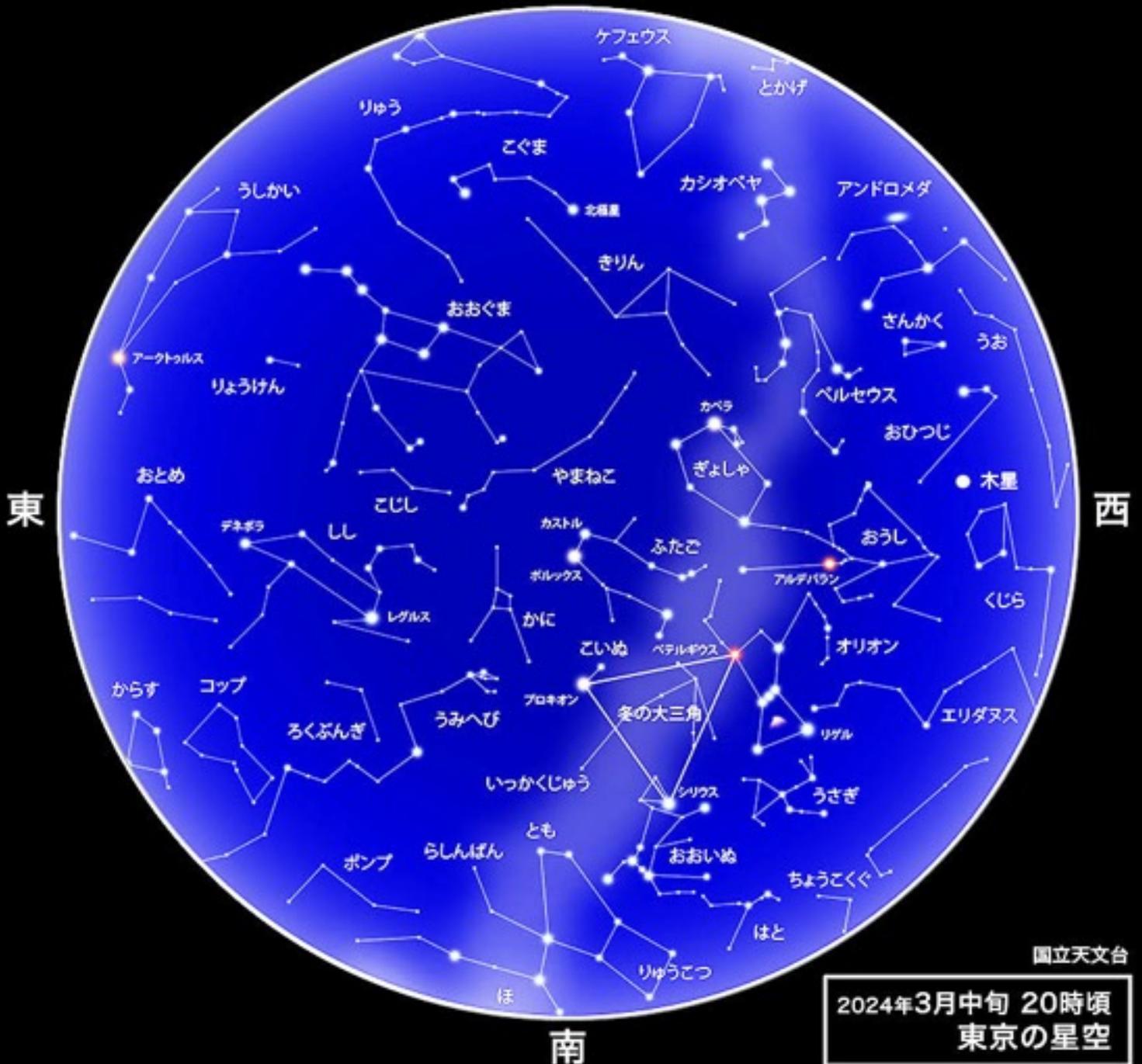
おおぐま座



しっぽから2番目には有名な肉眼二重星ミザルとアルコルがあります。伊勢原の明るい夜空でも子どもの健康な視力ならば二つの星に分かれているのが見えるでしょう。

北斗七星のかたむきは目立ちますから、1時間たったら傾きがどう変わるか、1ヶ月経ったらどう変わるか、など写真に撮っておいて並べてみると、北天の星々が北極星を中心に回っていることがよく分かりますよ。ぜひやってみましょうね。

北



国立天文台

2024年3月中旬 20時頃
東京の星空

